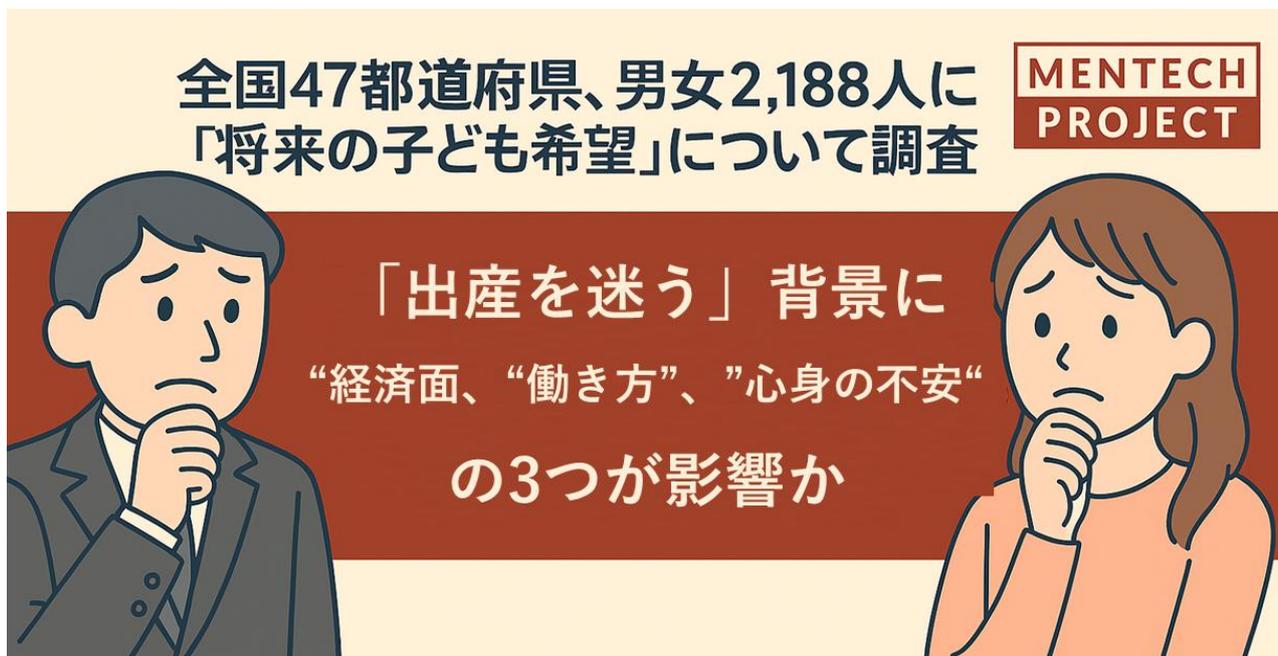


【全国47都道府県、男女2,188人に「将来の子ども希望」について調査】

**「出産を迷う」背景には
“経済面”、“働き方”、“心身の不安”の3つが影響か
経済的不安と柔軟な働き方の有無が大きな分かれ目に？
30～40代女性にとっての経済的・身体的な不安とは？**

アンファー株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:吉田南音 以下「アンファー」)が展開するメンテックブランド「HOMTECH[オムテック]」は、全国47都道府県、合計2,188人を対象に「将来の子ども希望」について調査を実施いたしました。



2024年の日本人の出生数は初めて70万人を下回り、68.6万人と発表されました。引き続き少子化は大きな社会的課題となっています。こうした状況を踏まえ、妊娠や出産に対してどのようなことが難しさや不安につながっているのか、経済や働き方、健康や夫婦関係など、様々な視点から調査を実施しました。その結果、「子どもを出産する上で難しいと考える理由」についての傾向が明らかになりました。

【調査サマリ】

日本全国2,188名の「将来の子ども希望」に関する意識調査

TOPICS① 子どもを出産する上で難しいと考える理由①経済面の不安

TOPICS② 子どもを出産する上で難しいと考える理由②働き方の影響

TOPICS③ 子どもを出産する上で難しいと考える理由③身体的/精神的な不安

【調査概要】

- ・調査手法:WEB調査
- ・対象地域:全国
- ・対象者条件:①男女 ②20代以上70代未満
- ・サンプル数:n=2,188
- ・調査実施日:2025年4月

調査解説

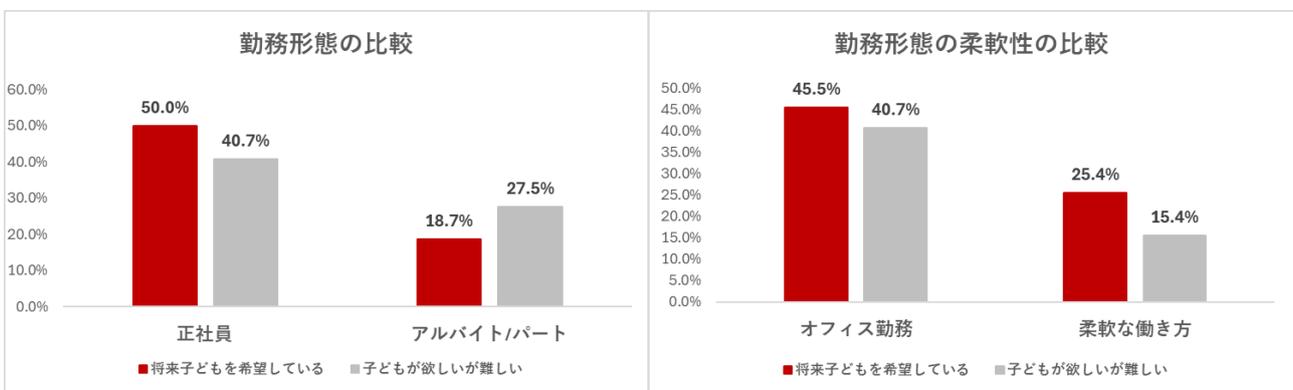
■子どもを出産する上で難しいと考える理由 ①経済面の不安

妊娠・出産における経済的な不安は、20～40代の女性を中心に極めて顕著であることが明らかになりました。中でも、30代女性の57.5%、40代女性の47.4%が「子どもを出産する上で難しい理由」として“経済面の不安”を挙げています。結婚や妊娠・出産といった大きなライフイベントが重なる時期において、経済的な事情が影響を与えていることがうかがえます。男性も30代・40代で一定の不安を示しているものの、全体的に女性の経済面への不安感が上回っており、女性の方が経済的状況をより重視している傾向が見られます。また実際の年収データにも、その傾向がはっきりと表れています。「将来子どもを希望している、あるいは妊娠中」の女性の平均年収が217万円であるのに対し、「子どもが欲しいが難しい」と感じている女性の平均年収は162万円と、約55万円の差が見られました。この違いは、妊娠や出産に関する気持ちや選択が、経済的な状況と深く関係していることを示しています。特に近年は、物価高騰や実質賃金の低下といった厳しい経済環境が、こうした経済面での不安をより一層深刻化させていると考えられます。

	経済的な不安	自分自身の健康面の不安	パートナーの身体的不安	精神的なストレスを抱えている	パートナーの理解や協力	夫婦のスキップ	仕事との両立	専門医が見つからない	年齢的な理由	不妊治療を行っているが妊娠しない	相談できる人がいない	専門医が見つからない	治療が辛い(採卵や自己注射など)	あてはまるものはない	
全体	40.1	22.2	20.3	18.9	16.0	18.4	15.6	0.9	40.6	3.3	1.4	1.4	5.2	10.4	
男性	20-29歳	42.9	-	14.3	14.3	28.6	-	-	-	-	14.3	-	-	14.3	
	30-39歳	46.9	21.9	31.3	34.4	9.4	21.9	12.5	-	18.8	3.1	-	-	6.3	
	40-49歳	41.7	22.2	27.8	16.7	27.8	25.0	19.4	2.8	61.1	-	-	8.3	5.6	
	50-59歳	23.1	15.4	19.2	3.8	19.2	23.1	15.4	-	50.0	3.8	-	-	15.4	
	60-69歳	10.0	10.0	10.0	15.0	10.0	15.0	10.0	5.0	55.0	5.0	-	5.0	5.0	30.0
女性	20-29歳	50.0	8.3	25.0	25.0	8.3	-	33.3	-	8.3	8.3	8.3	8.3	-	8.3
	30-39歳	57.5	30.0	20.0	15.0	12.5	22.5	17.5	-	30.0	5.0	-	2.5	5.0	7.5
	40-49歳	47.4	42.1	10.5	21.1	26.3	15.8	21.1	-	42.1	10.5	-	-	10.5	-
	50-59歳	30.8	23.1	7.7	30.8	7.7	7.7	7.7	-	76.9	-	-	-	15.4	7.7
	60-69歳	28.6	28.6	14.3	14.3	-	14.3	-	-	42.9	-	-	-	14.3	28.6

■子どもを出産する上で難しいと考える理由 ②働き方の影響

「将来子どもを希望している」女性の勤務形態を見ると、正社員が50.0%、アルバイト・パートが18.7%という結果となりました。一方、「子どもがほしいが難しい」と回答した女性では、正社員が40.7%、アルバイト・パートが27.5%となっており、子どもを希望している層の方が正社員の割合が高く、アルバイトの割合が低い傾向が見られました。勤務形態の柔軟性にも、両者の間で違いが見られます。子どもを望んでいる層では、オフィス勤務が45.5%と最も多いものの、在宅勤務やモバイルワーク、時差勤務、フリーアドレスといった柔軟な働き方を選んでいる人は合計で約25.4%にのびりました。これに対して、「子どもがほしいが難しい」と感じている層では、オフィス勤務が40.7%と近い水準であるものの、柔軟な働き方をしている人の割合は15.4%にとどまり、約10ポイントの差が生じています。この結果から、雇用の安定性や勤務形態の柔軟性といった女性を取り巻く就労状況が、将来の妊娠・出産に対する意識や選択に一定の影響を与えている可能性があると考えられます。



■子どもを出産する上で難しいと考える理由 ③身体的/精神的な不安

また、身体的・精神的な不安や、夫婦関係の在り方など、さまざまな要素が複雑に関係していることもわかりました。「自身の健康への不安」を抱えている女性は、30代で30.0%、40代ではさらに増え42.1%と、年齢とともに出産リスクや不妊への懸念が強まっている様子がうかがえます。一方、20代女性では8.3%と非常に低く、若年層ではそうした不安がまだ顕在化していない傾向にあります。加えて、30代男性では「パートナーの身体的な不安」を感じている割合が31.3%と最も高く、女性の年齢や健康状態を現実的な課題として捉えている様子がうかがえます。

精神的な面では、30代男性の34.4%が「ストレスを感じている」と回答しており、仕事や将来への不安が強い時期であることがうかがえます。また、「パートナーの理解や協力が得られていない」と感じる割合を見ると、40代男性では27.8%に上るのに対し、30代男性では9.4%にとどまっています。これは、30代ではパートナーの協力を当然と考えている、または不満がまだ顕在化していないことが考えられます。

■この調査に関して男性不妊治療の第一人者である辻村教授にコメントをいただきました



生殖医学、性機能障害の治療に注力し、不妊に悩む数多くのご夫婦を助けてきた。

日本泌尿器科学会 専門医・指導医

日本生殖医学会 生殖医療専門医・指導医

略歴

順天堂大学医学部附属浦安病院泌尿器科 教授

Dクリニック東京 医師

兵庫医科大学卒業。国立病院機構大阪医療センター勤務後、ニューヨーク大学に留学し細胞生物学臨床研究員を務める。大阪大学医学部泌尿器科准教授などを経て、順天堂大学医学部附属浦安病院泌尿器科教授。

Dクリニック東京でも従事。

2024年の日本人の出生数は68.6万人と、少子化が引き続き深刻な社会問題であることは間違いありません。妊娠や出産に関する不安は、女性だけでなく男性にも広がっています。男性の生殖機能も年齢や生活習慣、ストレスの影響を受けやすく、これが妊娠の難しさにつながる場合もあります。実際、カップルの約4.4組に1組が不妊問題を抱え、そのうち男性側に原因があることも多いのです。

一方で、女性は年齢による身体的なリスクや健康管理の負担が大きく、経済的な不安や働き方の制約も重なって、心身の負担が増えています。男女ともに、それぞれの立場でさまざまなプレッシャーを感じていることが、妊娠・出産のハードルを高くしていると言えます。

男性もパートナーと協力して健康を意識し、必要に応じて早めに検査や治療を受けることが大切です。近年は男性不妊の治療技術も進歩しており、適切なサポートを受けることで多くのケースで改善が期待できます。

私たち医師は、一人でも多くのカップルが不妊の悩みから解放されることを目指し、予防啓発はもちろん、妊活がうまく進まない場合でもしっかりとサポートできる体制を整えていくことが、これからの大きな使命であると考えています。

■HOMTECH(オムテック) ブランドマネージャー 長内 尚コメント



妊娠や出産をめぐる不安は男女ともに高まっていると実感しています。なかでも、男性の健康や生殖機能に対する関心は徐々に広がりつつありますが、男性不妊についてはまだ十分に“自分事”として捉えられていない現状があります。今回の調査でも明らかになったように、経済面や働き方、心身の健康など、妊娠・出産にはさまざまな要素が関わっており、パートナーとともに歩む妊活の重要性が改めて浮き彫りになりました。

私たちは、自分自身の健康や生活習慣を見直すきっかけを提供し、特に男性の健康面にも目を向けながら、お子さまを望む方々をサポートしていきたいと考えています。

そのためにHOMTECHでは、男性の妊活に役立つ情報や商品を通じて、男性を中心に妊娠を望むすべての方々を支えていきます。

■HOMTECH(オムテック)

HOMME(男性)とTECHNOLOGY(テクノロジー)をかけた造語で、男性特有の健康課題に対して、正しい情報や正しいケアを提唱していくことを表現しています。男性が健やかで豊かな未来を創造できるようサポートする、セルフケアブランドです。

ブランドサイトURL:<https://homtech.angfa-store.jp>



アンファー株式会社について

アンファー株式会社は、1987年に会社設立。「予防医学」をタグラインに掲げ、“「いつまでも美しく、健やかに生きる」というエイジングケア・ライフスタイルの実現を目指す”トータルヘルスケア・カンパニーです。多くの医師や臨床機関・研究機関との密接なリレーションを構築しながら、「スカルプD」シリーズをはじめ、化粧品、食品等、様々なエイジングケア商品・サービスの企画・研究開発および販売を行っております。2019年4月10日より、“Dクリニックグループ”※に参画しました。

※Dクリニックグループは、「医学」を背景として、共通の目的と理念を実現するために、企業、クリニック、NPO法人団体等により発足したグループです。

【報道関係者お問合わせ先】 アンファー株式会社 PR課 TEL:03-3213-8882 FAX:03-3215-6155 Email:pr1@angfa.jp	【お客様からお問合わせ先】 アンファー株式会社 〒100-7026 東京都千代田区丸の内2-7-2 JPタワー26F TEL:0120-059-595 [営業時間:午前9時~午後6時] (日祝・年末年始を除く)
--	--